

メヘレン宣言

2014年3月19日

前言

2014年3月17日～19日、世界58ヶ国の博物館や科学館のリーダーがベルギーの都市メヘレンに集い、世界科学館サミット (Science Centre World Summit= SCWS) を開催しました。これまで1996年から6回にわたって世界科学館会議 (Science Centre World Congress) が各大陸で開かれてきましたが、今回はその成果を踏まえたレベルの高い集まりになります。総勢443名の参加を得たこのサミット期間中、科学館のリーダーらは国際社会の政策立案に携わる人たちや科学者、一流企業の代表者などと会合を行ない、科学はもちろん、科学への市民の関与について、そして急速に変化する社会のなかで科学コミュニケーションと科学館がどのような役割を果たすべきかについて、意見を交わしました。私たち科学館は、これからも社会に貢献し続けることを決意し、この宣言を世界規模の行動方針として掲げます。

1996年以降、公共政策の分野では、気候やエネルギー、伝染病、インターネット上の個人情報保護、研究活動など、科学をベースにした課題が急増しています。現在、人々はますます科学に接するようになり、デジタル革命は私たちとテクノロジーの関係を抜本的に変化させてきました。そしてこのデジタル革命によって、コミュニケーションや学習手法の新たな潮流が生みだされています。科学館はこれまで、それぞれの地域特性に合わせた取り組みや、社会的なニーズへの対応、また政策参加の反映など、さまざまな分野(の問題)に幅広く取り組んできました。政府、科学関連企業、国際機関、多国籍企業および教育界の誰もが認めているのは、人類の進歩、繁栄、そして幸福のためには、いま地球規模で起きている科学技術の課題に市民が関わることが不可欠だということです。世界中に約3,000を数える科学館は、参加型、探求型学習を率先して推進しており、年間3億1千万人以上の来館者から高い評価を受けています。

それぞれの科学館は、科学的な現象を体験型展示で見せるという、従来型手法の先へ進もうとしています。実際、いま多くの科学館が行なっているのは、地球規模課題について来館者が語り合う場をつくり、彼らが社会のなかで活躍できるよう働きかけることです。それによって、国連のミレニアム開発目標や、2015年に発表予定の持続可能開発目標の実現に貢献しているのです。

Science Centre World Impact

2011年の世界会議(World Congress)以降、世界の科学館は目覚ましく進歩してきました。アフリカ、ラテンアメリカ、地中海沿岸、東欧やアジア地域に数多くの科学館が設立されており、いずれも各地域の特性や土地に根ざした知識、来館者の多様性に対して、これまで以上に配慮した活動を

行なっています。科学者と一般市民とが語り合う機会は増えており、これらの対話を通して、科学技術に関する一般市民の意見が政策決定に取り入れられる事例も数多くでてきました。人々はいま、科学への投資や政策決定の過程といった事柄に対して、以前よりも(容易に)発言できるようになってきています。また、地球全体、あるいは地域が抱える問題を解決するための活動に、人々が積極的にかかわるよう後押しされています。科学館が創造力、発明、イノベーション(という方向性)をいっそう強く押し進めた結果、私たちはさらに持続可能なライフスタイルへと歩みを進めているのです。

The Science Centre World Summit 2014

人々の科学への関心を促し、科学への関与を高めるための(各機関の)協力体制は、文化的・政治的・経済的・地理的な境界を越えて、かつてない広がりを見せています。公教育や芸術、ビジネス、政策立案者、メディアとの世界的なつながりは、以前よりも強いものになっています。SCWS2014 はこれまでの取り組みを継続するとともに、既存の協力体制を再構築し、未来へのビジョンを共有しながら新たな協力体制をつくりあげる機会となりました。つまりこの会議は、さまざまに変化する状況のなかで生まれる課題に向き合う機会として、科学館とそのパートナーの双方にとって有益だったといえるでしょう。

2014年のサミットの成果は、政策立案に関わる人、科学者、グローバル企業、国際機関などこれまで以上に大勢の人々が、世界中の科学館と協力する重要性を認めたことです。こうして協力することによって、科学館は市民と科学技術の間を橋渡し、さまざまな地球規模課題を解決するという共通の目的に向かって、一歩を踏み出すことができるのです。科学館とは、単に愉快的な体験学習をしたり、雨の日の午後を楽しく過ごしたりする場ではありません。あらゆる世代の人々の考え方や行動を変容させていくという意味で、ユニークな機関なのです。今後、科学館はさまざまな(外部機関との)協力関係を強化していくことで、科学技術への市民関与をより戦略的なレベルまで推し進めることができるでしょう。同時にこうして協力関係を結ぶことで、それぞれの職務を互いにサポートし合う風潮ができていくでしょう。

そこで、世界の科学館は、さまざまな協力機関とともに、未来に向かって下記の目標に取り組んでいきます。

1. 地域社会、および多様化していく来館者と手を結ぶためにはどうすればいいか。その際、ジェンダーによる格差を常に意識するにはどうすればいいか。さらに効果的な方法を探る
2. 世界全体に良き影響を与えるよう行動し続け、人類の持続可能な進歩のために科学技術が貢献できる可能性があることを、世界中の人々にもっとわかってもらう。
3. 地球規模で人々の目にとまるような活動をすることで、政策立案者やメディアに、科学技術へ

の市民関与の重要性を認識させる。

4. 科学館とは“信頼できる場所”である、という地位を確立するよう努める。新しい技術による解決策や持続可能な技術を人々に紹介し、その活用を促進する場であるからだ。

5. 様々な背景において適切なテクノロジーを駆使し、公式と非公式の両方の場面で学習者の参画と教育の最適化ができるよう、より良い方法を率先して開発していく。

6. 一般市民をより直接に研究活動に参画させる。参画させることで人々を力づけ、考え方を広げると同時に、大学や研究機関の活動を社会や、より広範囲な地球規模的な社会問題に対して意義のあるものにする。

7. 2019年の国際科学館年を成功させるために協力し、世界中の人々が科学技術と社会の関係についてお互いの経験を共有するように推進する。